

1. 設計趣旨

設計趣旨

庁舎建築では長い間、行政や議会の権威を象徴する造形が好まれてきました。高層化や高い塔などによってできるだけ大きく見せる工夫、堂々とした正面のファサード、シンメトリーな構成。しかし、これらが一定の価値を持った時代は終わり、今日では新しい価値とシンボルが求められています。私たちは、中札内の美しい自然景観や農村風景、その中で暮らし、をシンボライズしそれに調和する庁舎建築であるべきと考えます。

新しい庁舎は、かしこく（機能的で使いやすく）、つつましく（威張らない、権威的でない）美しく（住民、職員、議員の皆様から愛される）そんな施設をつくりたい。

かしこく

つつましく 美しく

機能的で使いやすく

地震や台風などの自然災害はもちろんだが、様々な非常事態により住民の生活が脅かされた時は、情報収集と指揮を行う中枢機能を発揮することが求められています。そのためハードとしての強さと機能を持つ庁舎を作ります。

威張らない、権威的でない

住民が行政に関心を持ち、行政に参加することを促すような活動が、重要になるでしょう。従ってこれらの庁舎はそれのような活動を助けるようなものでなくてはなりません。そのためには庁舎は解放的で親しみやすく、住民誰もが気軽に立ち寄り、様々な情報の交換や相談、人的な交流を促進する庁舎を目指します。

住民、職員、議員の皆様から愛される

いつかは美しい中札内村に住みたいという人が、帯広にも本州にもたくさんいると聞かれています。彼らが魅力を感じているのは、自然景観や農村風景のことで、市街地の景観は未だ不十分です。これからの中札内の市街地がより魅力的な居住環境になるために、新しい庁舎とその外構が新しい市街地のモデルとなるものでなくてはなりません。

平屋建ての庁舎を提案します

敷地面積7,165㎡に対して庁舎延べ床面積1,700㎡、駐車場50台分は約1,300㎡。庁舎を平屋建てにしても4,000㎡の十分な余裕がありますので、庁舎を平屋建てにすることを提案します。これによりユニバーサルデザインの徹底、執務空間の集約、オープンフロア一化によるフレキシブルな平面など、庁舎建築に求められる様々な特性を最もシンプルにかつ効率的に実現できます。また、エレベーター、エスカレーター、階段、スロープ、避難器具などなどの要素を省略でき、面積もコストも節約できます。

1. 建築計画

鉄骨純ラ－メン構造を提案します

耐久性、コストなどを総合的に判断すると、今回の平屋建て庁舎にはRC造よりも鉄骨造がふさわしいと考えます。平屋建て純ラ－メン構造はあらゆる方向の揺れに対して均等に耐力を発揮し、平屋建てで荷重が少ないため、極めて地震に強い建物が実現できます。

スケルトン・インフィルの庁舎

スパンは約9×12mの均等グリッドを基本とします。耐力壁が必要なくなるのでスケルトン・インフィルの考えに基づき、長期的に自由なプランニングが可能で、長寿命のスケルトン（躯体）と役場の組織改編などの変化に対応できるインフィル（内装）により、機能的かつ柔軟性の高い庁舎を実現します。

杭は使いません、残土も出しません

GL-1300付近でN値50の支持層があるので、ここに基礎底盤を設置し、杭は必要としません。敷地を約平均地盤面+30cmで造成し、残土は敷地内で処理します。コストダウンに貢献するばかりではなく、残土搬出のダンプカーが市街地を走り回りを回避できます。盛土を行うことで、ゲリラ豪雨などからの浸水リスクを軽減します。このような基礎によって自動的にゆったりとしたビット空間が生まれます。この空間を様々な有効活用してゆきます。一部は、緊急時の排水一時貯留槽として活用します。

奥行き深い建物提案します

建物の形は、細長い長方形のものではなく、正方形に近い奥行き深い形状を提案します。一般に奥行きが深い建物では窓から遠い部分は自然光が入らないために暗くまた風通しも悪く、自然換気ができません。しかし今回は、平屋建てであるために必要な箇所で、トップライトや光庭を設置することができ、執務室のあらゆる箇所でも自然採光、自然換気を利用できる省エネルギー性の高い建築が可能です。建物の奥行きが深くなる事で、オープンフロア一化の効果が一段と高まります。また外壁面積が少ないためコストダウン効果が大きく、さらに断熱、保温効果が大きく高効率の省エネルギー建築となります。

議場の顕在化

近年では庁舎内に議場が組み込まれた建築が増えていきます。しかし議会は本来、行政を監視する機能ですから、その存在、その立ち位置を明確に表すために、議会部分は外部から見ても認識できるように、特徴のある屋根をのせ、執務空間とは区別がつくようにします。住民が議会の存在に、より関心を持ってもらうことを促進するでしょう。

議会スペースの多目的利用

使われていない時の議場を職員や住民が利用できるように提案します。議場は、容易に移動できる家具類で構成し、平土間形式とします。議会閉会時には大会議室として、プレゼンテーションルームとしての利用が可能なスペースとします。また監査員室も会議室等として職員の利用が可能なスペースとします。

2. 設計趣旨

1. 建築計画

十勝の気候風土を活かした建物

冬の十勝の日照率は、全国でも有数の高さです。南面を大きく開放し、ダイレクトゲインを取り入れることで、冬の暖房負荷を軽減させることができます。南側の暖まった空気を回収し、北側の部屋に送り込むことで、ダイレクトゲインが得られない北側の空間についても、自然のエネルギーで暖めることができます。また、空気の自然対流を促すことで、建物内をかたよりのない室温にすることが可能となります。

自然採光・自然換気

自然採光、自然通気を取り入れ、電気設備、機械設備に依存しすぎない省エネルギーの建物を計画します。日中、照明をつけなくても充分に明るい建物をつくります。南の光を十分に採り入れ、大きなトップライトなどを併用することで、十分な照度を確保します。また、トップライトを換気塔として機能するように計画します。夏の暑いときに、熱気を上方に逃がし、冷たい空気を床下から取り入れる、シンプルな自然冷房装置となります。

高断熱・高気密

- ・外壁や屋根には外断熱工法を採用します。温熱環境を向上させるとともに、躯体を経年劣化から保護します。
- ・屋根面を緑化することも検討します。屋根の上の土や植物は、自然の断熱材となり、機械設備による冷暖房の負荷を軽減させることができます。
- ・LOW-Eペアガラス、トリプルサッシ、断熱カーテンなどを採用し、外部建具からの熱損失防止を図ります。
- ・コンパクトな建物形状とすることで、外壁の面積を小さくします。
- ・シンプルなパッシブの仕組みと、高断熱・高気密を組み合わせることで、暖房設備の使用を最小限にしても暖かい室内環境を獲得することができます。

トップライト

天井のトップライトから降り注ぐ光は、暖かくやわらかな光のときもあれば、刺すような強烈な光の時もあります。季節や天気によって表情が変わる自然の光は、空間を豊かに演出します。電動ブラインドをコントロールすることで、時の移ろいを豊かに感じることができます。

自然を和らげる手法

- ・防風林、土手などを計画的に配置し、強い北西風や地吹雪から建物を守り、夏の南東微風を取り込みます。
- ・アプローチではキャノピーや植栽、フェンスなどにより防雪に配慮します。
- ・樹木や庇、パーゴラや可動デントにより南・西面の夏期日射負荷を抑制します。
- ・樹木、芝張りによる夏の照り返し抑制を行います。

